

図書館員が選ぶこの一冊 38



『旅する練習』 講談社 乗代雄介／著

小学校を卒業したがコロナ禍で春休みの予定がなくなった姪の「亜美」と小説家の叔父「私」は我孫子駅から徒歩で旅に出る。千葉の我孫子から利根川沿いを茨城の鹿島まで、亜美はリフティング、私は書くことを“練習”しながら、それぞれの上達を目指す旅である。

2人の一風変わった旅は、手賀沼周辺の歴史や自然と利根川の雄大な景色の中を進む。我孫子に住む者にとっては、情景や行程が容易に浮かんでくる。読者もすっかり旅の仲間になっていることに気付く。

我孫子市が登場する本たち

今号の図書館員が選ぶこの1冊で紹介している『旅する練習』は令和3年、第164回芥川賞候補になった作品で、物語の中で我孫子市が登場しています。作者の乗代雄介さんは、もともと柏の中学・高校に通っていた頃、手賀沼周辺を歩いていたそうで「その頃の記憶や自然の豊かさに加えて、鳥の博物館や鳥類研究所、文学の史跡もたくさんあって、自分にとっては小説について考える中で、もたらしてくれるものがとても多い町」と語っています。

我孫子が登場する作品はほかにも『和解』/志賀直哉著、『白磁の人』/江宮隆之著、『冷血』/高村薫著、『リーチ先生』/原田マハ著などがあります。我孫子が登場することで、より身近に感じられる作品を読んでみませんか。☎ 図書館アピスタ本館 ☎7184-1110